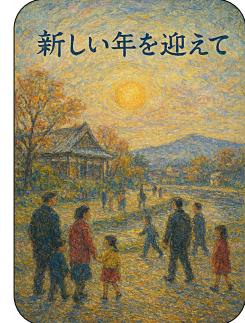


『五十海』いかる  
み』という地名  
天正2年(1574年)の武田勝頼朱印状には『五十海郷』と記載されていま  
す。しかし、寛元2年(1274年)の北条時頼の伊豆山神社への寄進状には、『伊賀留美郷』と記載され、万葉漢字が使われています。このことから、この地名は飛鳥時代には存在していいた可能性が高いと考えられます。さらに注目すべきは、大和地方

## コラム

# 謹賀新年 悠久の地に夢を託し、未来を拓く藤枝



謹賀新年

り教営庭とびとてくえもちにしてがのを校のの  
、育みやどの思胸む、た大あいおら未中の小中  
子のそ地ま場いに責希ち人た年り共来心子学学  
ど土の域らはま刻務望のはりをまにをにど校校  
も壌も社す学すみをを夢、迎す暮託、も、と  
たとの会、校。た改はを子私え。らし地た計3  
ちながの家に学いめぐ支どたる新しな域ち4つ

12日(水)、藤枝中 令和7年11月



# 放課後子ども教室始まる

続 うで回知一レス第わ一動施を涯まス央子象学初学  
きま す・郷一ろ藤ンボ2く開はさ会学リクつどに校め校  
閉土力う枝ジ一回理校、れ場習ま一こもしのて区  
校をル!の一ツ一科式第たにセシルア教た児のと  
式楽タ一歴第にニ実・第こしんた』フ室放童中して  
一し作第史3チユ験わ1のてタ。ガタ『課を央は  
ともり4を回ヤ!一く回活実一生始一中後対小